

平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成29年2月3日

上場会社名 塩水港精糖株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2112 URL http://www.ensuiko.co.jp  
 代表者(役職名) 代表取締役社長(氏名) 山下 裕司  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役管理グループ長(氏名) 酒井 英喜 (TEL) 03-3249-2381  
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月3日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日~平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	21,131	2.4	719	△13.5	828	△6.1	592	2.8
28年3月期第3四半期	20,627	—	832	—	882	—	575	—

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 1,034百万円(22.2%) 28年3月期第3四半期 846百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	21.84	—
28年3月期第3四半期	21.24	—

(注) 28年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率は、会計方針の変更に伴い遡及適用が行われたため、記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	25,189	7,715	30.6
28年3月期	24,484	6,816	27.8

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 7,715百万円 28年3月期 6,816百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日~平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,000	0.6	750	△26.5	870	△13.9	630	1.7	23.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

対前期増減率及び対前年同四半期増減率は、会計方針の変更に伴い遡及適用が行われたため、遡及処理後の数値との比較によるものであります。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期3Q	35,000,000株	28年3月期	35,000,000株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	7,890,604株	28年3月期	7,890,604株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期3Q	27,109,396株	28年3月期3Q	27,109,400株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善するなど緩やかな回復基調で推移しました。一方、英国のEU離脱問題や米国の大統領選挙結果により為替や株式相場が大幅に変動するなど、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社グループはお客様のおなかの健康に貢献する「おなかにやさしい会社」を目標に、砂糖事業並びにバイオ事業の計画達成に向けて全力で取り組んで参りました結果、当期の業績は以下のとおりとなりました。

なお、第1四半期連結累計期間より、各報告セグメントの収益認識基準を変更し、遡及適用しております。当変更に伴う影響につきましては「(セグメント情報等)」に記載しております。

#### ①砂糖事業

海外原糖市況は、ニューヨーク市場粗糖先物相場(当限、1ポンド当たり)において15.40セントで始まりしました。原油等の他商品市場の下落基調を背景に4月中旬には14.00セントまで下げましたが、ブラジル中南部におけるキビ圧搾の遅れや、インド・中国などでの需給バランスの引き締まりを背景に上昇を続け、10月初旬には4年ぶりとなる23.90セントの高値をつけました。その後、投機筋の売りにより19.51セントで当期を終了しました。

国内市中価格(日本経済新聞掲載、上白糖大袋1kg当たり)は、期初187~188円で始まり、海外原糖相場の上昇を受けて10月下旬には192円~193円に上昇し、同水準のまま当期を終了しました。

精糖などの国内販売は、大手ユーザー向けは好調に推移したものの、家庭用が低調であったことから、売上高はほぼ前年並みとなりました。

以上の結果、当期における砂糖事業全体の売上高は19,608百万円(前年同期比1.6%増)、セグメント利益は1,179百万円(前年同期比17.0%減)となりました。

#### ②バイオ事業

オリゴ糖事業は、前年度から各種メディアに取り上げられている『腸内フローラ』特集の効果に加え、テレビCMの放映等による一般消費者への訴求及び主要量販店等への販売促進活動の強化に努めたことにより「オリゴのおかげ」の販売数量は好調に推移し、売上高は前年同期を上回りました。

サイクロデキストリン事業は、食品及び非食品への拡販に努めましたが、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、当期におけるバイオ事業全体の売上高は1,475百万円(前年同期比14.4%増)、セグメント利益は287百万円(前年同期比127.4%増)となりました。

#### ③その他

その他の事業につきましては、ニューESRビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用にも努めました結果、売上高は97百万円(前年同期比1.0%減)、セグメント利益は42百万円(前年同期比15.2%減)となりました。

以上の結果、当期の売上高は21,131百万円(前年同期比2.4%増)、営業利益は719百万円(前年同期比13.5%減)、経常利益は828百万円(前年同期比6.1%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は592百万円(前年同期比2.8%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて705百万円増加し、25,189百万円となりました。

これは主に、受取手形及び売掛金566百万円の増加、投資有価証券が644百万円増加した一方で、原材料及び貯蔵品が283百万円減少したことによるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べて193百万円減少し、17,473百万円となりました。

これは主に、短期借入金1,800百万円の減少、支払手形及び買掛金が198百万円減少した一方で、長期借入金1,512百万円増加したことによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて899百万円増加し、7,715百万円となりました。

これは主に、利益剰余金456百万円の増加、その他有価証券評価差額金418百万円の増加によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年3月期の通期連結業績予想につきましては、平成28年5月10日公表の業績予想からの変更はありません。

今後、何らかの変化が生じた場合、適時適切に開示してまいります。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得する建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表への影響額はありません。

(収益認識基準の変更)

当社及び連結子会社では、従来、主として出荷基準により収益を認識しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、契約条件等に基づき納品日に収益を認識する方法に変更しております。この変更は、顧客との取引関係において実態により即したものにすべく、請求の計上日を納品日に変更することに顧客との間で合意したことから、売上の実態をより適切に反映させるために行ったものであります。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前第3四半期連結累計期間および前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表および連結財務諸表となっております。

これにより、遡及適用前と比較して、前第3四半期連結累計期間の売上高は58百万円増加、売上総利益、営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益はそれぞれ12百万円増加しております。また、前連結会計年度の期首の純資産額に対する累積的影響額が反映されたことにより、利益剰余金の前期首残高は9百万円減少しております。

なお、セグメント情報に与える影響については、「(セグメント情報等)」に記載しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,179	1,296
受取手形及び売掛金	1,647	2,214
商品及び製品	1,220	1,347
仕掛品	194	299
原材料及び貯蔵品	1,178	894
繰延税金資産	101	122
その他	1,162	942
流動資産合計	6,684	7,117
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,824	9,876
減価償却累計額	△5,841	△6,041
建物及び構築物(純額)	3,983	3,835
機械装置及び運搬具	11,541	11,710
減価償却累計額	△9,881	△10,092
機械装置及び運搬具(純額)	1,660	1,618
工具、器具及び備品	429	429
減価償却累計額	△354	△364
工具、器具及び備品(純額)	74	64
土地	5,234	5,234
建設仮勘定	8	29
有形固定資産合計	10,961	10,782
無形固定資産		
ソフトウェア	18	12
その他	26	116
無形固定資産合計	45	128
投資その他の資産		
投資有価証券	4,429	5,074
長期貸付金	1,450	1,357
繰延税金資産	845	635
その他	67	93
投資その他の資産合計	6,793	7,160
固定資産合計	17,800	18,071
資産合計	24,484	25,189

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,068	869
短期借入金	7,150	5,350
1年内返済予定の長期借入金	1,846	1,953
未払法人税等	285	89
未払消費税等	128	221
賞与引当金	76	40
その他	927	1,320
流動負債合計	11,482	9,844
固定負債		
長期借入金	4,952	6,464
退職給付に係る負債	895	828
その他	336	335
固定負債合計	6,185	7,628
負債合計	17,667	17,473
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	241	241
利益剰余金	8,502	8,958
自己株式	△3,021	△3,021
株主資本合計	7,472	7,928
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△636	△218
繰延ヘッジ損益	△26	△10
退職給付に係る調整累計額	7	15
その他の包括利益累計額合計	△655	△212
純資産合計	6,816	7,715
負債純資産合計	24,484	25,189

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	20,627	21,131
売上原価	16,948	17,493
売上総利益	3,678	3,638
販売費及び一般管理費	2,846	2,918
営業利益	832	719
営業外収益		
受取利息	27	25
受取配当金	114	112
持分法による投資利益	—	92
その他	7	3
営業外収益合計	149	234
営業外費用		
支払利息	75	82
持分法による投資損失	2	—
支払手数料	21	22
その他	0	20
営業外費用合計	99	125
経常利益	882	828
特別利益		
投資有価証券売却益	0	—
特別利益合計	0	—
特別損失		
ゴルフ会員権評価損	—	1
特別損失合計	—	1
税金等調整前四半期純利益	882	826
法人税、住民税及び事業税	280	240
法人税等調整額	26	△5
法人税等合計	306	234
四半期純利益	575	592
親会社株主に帰属する四半期純利益	575	592

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	575	592
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	313	418
繰延ヘッジ損益	△25	15
退職給付に係る調整額	△3	8
持分法適用会社に対する持分相当額	△12	△0
その他の包括利益合計	271	442
四半期包括利益	846	1,034
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	846	1,034

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	19,282	1,270	74	20,627	—	20,627
セグメント間の内部売上高 又は振替高	14	19	24	57	△57	—
計	19,296	1,290	98	20,684	△57	20,627
セグメント利益	1,421	126	50	1,597	△765	832

(注) 1 セグメント利益の調整額△765百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△766百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	19,594	1,454	83	21,131	—	21,131
セグメント間の内部売上高 又は振替高	13	21	14	49	△49	—
計	19,608	1,475	97	21,181	△49	21,131
セグメント利益	1,179	287	42	1,510	△790	719

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの区分の変更)

前連結会計年度末より、従来「不動産賃貸事業」に含めていた工場設備について、管理区分の変更に伴い、「砂糖事業」及び「バイオ事業」へ含めております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成したものを開示しております。

第1四半期連結累計期間より、「不動産賃貸事業」の重要性が乏しくなった為、「その他」に変更しております。

(収益認識基準の変更)

「(会計方針の変更)」に記載のとおり、収益認識基準の変更を遡及適用しております。

これにより、前第3四半期連結累計期間における「砂糖事業」の売上高が53百万円増加、セグメント利益が10百万円増加、「バイオ事業」の売上高が5百万円増加、セグメント利益が2百万円増加しております。